

ひがしそ のぎ



# 議会だより

第 144 号



2014年成人式 (1月3日)



一般質問 (2名)	2ページ
12月定例会	3～5ページ
議員研修報告	6～7ページ
新年の挨拶	8ページ



# 12月定例会 補正予算 全て可決

## 一般会計

歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ1億690万7千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ47億8,393万6千円とされた。

歳出の主なものは、民生費の障害福祉サービス給付費、保育所運営費など3,683万3千円、農林水産業費に林業専用道路白土線新設工事費など990万8千円、土木費に木場本線道路改良事業費など915万4千円、九州旅客鉄道株式会社にかかる固定資産税過年度還付金（10年分）4,220万2千円等が計上された。

歳入については、特定財源で、扶助費の財源として障害者自立支援給付費国庫負担金1,628万5千円及び保育所運営費国庫負担金375万円などと、一般財源として、財政調整基金繰入金4,900万7千円、普通交付税4,283万1千円などが計上された。

## 国民健康保険

歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ243万3千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ12億4,436万7千円とされた。

歳出については、保険給付費で、退職被保険者等療養費、一般被保険者高額療養費、退職被保険者高額療養費、葬祭費の不足額が見込まれるため。

歳入については、前年度繰越金が計上された。

## 介護保険

歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ319万9千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ9億2,545万9千円とされた。

歳出については、平成20～23年度及び25年度地域支援事業の包括的支援事業・任意事業費の一部返還並びに減額、平成23年度介護給付費財政調整交付金の一部返還により、過年度返還金230万2千円追加計上し、関連する保険料分89万7千円を基金積立金として計上された。

歳入については、繰入金、358万4千円、繰越金14万円を追加し、国庫支出金52万5千円が減額された。

## 簡易水道

歳入歳出予算の総額から、歳入歳出それぞれ397万8千円を減額し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ1億8,047万4千円とされた。

歳出については、353万1千円が追加計上され、建設改良費750万9千円が工事見込みにより減額された。

歳入については、前年度繰越金353万1千円が追加計上され、雑入750万9千円が減額された。

## 公共下水道

歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ1,039万8千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ4億3,319万8千円とされた

歳出については、建設費の補償補填金及び賠償金を518万7千円減額し、国庫2次補正要求額等を加えた1,738万2千円が工事請負費に追加計上し、職員人件費の不用額分が減額された。

歳入については、国庫負担金730万円、繰越金95万2千円、諸収入104万6千円、町債230万円が計上され、繰入金120万円が減額された。

## 一般質問

（本稿は質問者の責任で作成しています）



吉永 秀俊 議員

### 人口減少・交流人口増加の対策は

【議員】持ち家奨励金制度の利用状況は。

【町長】3年間で、24世帯・総額2千万円の利用があり、その内、町外からの移転は7世帯20名でした。

【議員】空き家バンクの登録件数と入居者数は。

【町長】17件の登録で現在11件の入居がある。【議員】町内にはもともと多くの空き家があり、入居希望者も多いと聞くが、人が住まなくなった家は荒廃が早い、登録をしてもらう対策は。

【町長】今までは登録をしてもらうのを待っていたが、今後は職員が積極的に出かけて行って登録をお願いしたいと思っています。

【議員】婚活事業の参加人数と成果は。また消極的な男性を積極的にさせるには進行役が大事と思うが現状は。

【町長】昨年は93名、今年86名の参加があり、今年11組のカップルが出来たようである。昨年の反省を踏まえ、携帯電話やメールの交換タイムなどを取り、進行に気配りをした。

【議員】鹿児島県鹿屋市や熊本県南関町では宅地分譲を行い、人口減少の歯止めを成果をあげている。本町でも、コスモス公園や丁子屋跡地など宅地造成した所は、ほぼ埋まっているのでより積極的な人口減少対策として、宅地造成の計画はないのか。

【町長】現在適した町有地がない。道の駅を利用した観光・交流人口増加対策を検討している。

【議員】平似田のコスモス公園は現在7件の造成地がすべて完了である。今後の造成予定は。

【議員】武雄市が行っているタブレット端末を利用した「反転授業」の評価と採用計画は。

【教育長】学習理解度の進捗やコミュニケーション能力を養うのに重要と思うので検討したい。

【町長】あと2、3区画は造成できるので検討したい。

【議員】購入してから15年以上放置している赤木町有地は新幹線の排出土を利用して宅地造成してどうか。

【町長】埋め立て造成しなくても整地すれば活用できると思っている。

【議員】小学生427人中115名・中学生218人中37名が保有している。大きな問題につながる「いじめ」の報告は今のところない。

【議員】無料で使えるラインによる「いじめ」対策は。

【教育長】専門家を呼んで保護者の研修を行っている。



岡田伊一郎 議員

### 防災対策は万全か

【議員】現在ではゲリラ豪雨が頻繁に発生するようになってきています。仮にこの数十年間災害発生の経験がない地域でも油断できません。

【町長】大雨や土砂災害に備え防災マップ等を作成し、自治会で様々な状況を想定し避難訓練を実施している。確かに今後の研究検討しなければならぬところもある。その都度、自治会や消防団で検証はこなっている。

【議員】今は役場が災害対策本部になっているが、水害等の状況を想定した場合、総合会館に設置して実施する考えは。

【町長】今後検討していく。

### ふるさと納税を増やす方法は

【議員】特産品を特典として寄付を集めるのなら、町内の農産物を思い切った謝礼として消費できたから、寄付していただいた方には還付金もあり、生産者、町、三方得になると思うが。

【町長】町も待ちの姿勢ではなく、目標を千万円に定め対策を講じている。特産品の特典も検討しなければならぬが、例えば中学校の同窓会などの目標をつくって、その中学校のための寄附などもある。

【議員】児童・生徒のアレルギー対策は。

【教育長】別食は経費の面で対応できない。入学時に学校保健調査により対象児童を把握している。



### 教育環境の問題は

【議員】学校での早朝練習による授業や発育に与える影響について、報道されましたが、各学校の状況は。

【教育長】彼中では体力づくりと継続、努力することの大切さを指導するため希望者によるランニングを行っている。千綿中は駅伝練習のタイム目標をもって行っているが、2校とも発育や授業に影響はないとの報告を受けている。

【議員】児童・生徒のアレルギー対策は。

【教育長】別食は経費の面で対応できない。入学時に学校保健調査により対象児童を把握している。





# 議員定数を定める条例の一部を改正する条例

(議員定数を12名から10名へ削減するもの)

## 賛成少数で否決

賛否表 (賛成○、反対●)

堀	橋村	浪瀬	福田	滝川	吉永	岡田	佐藤	樋口	後城	本下
●	●	●	○	●	○	○	○	●	●	○

## 反対意見

議員各位がそれぞれの役割を果たせば10名で議会は機能すると考えるが世の中には様々な人が暮らし様々な考えや意見があり様々な意見の集約が議会であり、多用な意見を汲み上げるために一定の数は必要。

農業、漁業、商工業等あらゆる専門分野において能動的に機能するのが望ましい。現状の有権者の選挙行動は有能な人、必要な人を選ぶ基準とは思えない。

その結果、必要とされる人が落選する事も有る。そうすると議会機能は低下する。民主主義を守るため議会制民主主義がある、職責を果たすため12名は必要であろう。なお、急激な人口減や財政状況等、考えると議員も身を削る必要がある、それは、定数を削減する事でなく報酬を削減すべき。

## 賛成意見

本町の人口は県下13市8町の中でも小値賀町に次に少ない8,700人台で12名の定数である、町の財政状況をみると町税額が人件費総額に等しく、交付税と県支出金、国庫支出金等、依存財源が主である。

今後、予想される総合会館や町営住宅、町道、橋梁等の維持管理費に莫大な金額も予想される。町長以下特別職も給与を削減され、まちづくり支援交付金の財源として充当されている。

議会の使命は具体的な政策の最終決定と行政運営の批判と監視があり、地区の問題は区長や民生委員の協力により行政機関が適法、適正、公平効率的、民主的になされている。

波佐見町は人口約15,000人で議員14名、佐々町は人口14,000人で議員10名。町の財政を考えるとさらに効率的な運営を図る必要がある議員自ら身を削る必要がある。

## 再生可能エネルギー発電設備設置促進条例の制定

町内に再生可能エネルギー源の利用の促進を図ることで、地球温暖化の防止に寄与することを目的とし、再生可能エネルギー発電設備の設置を促進するため。

## 負担付き寄付の受納について

建物の除却という負担付き財産の寄付を受ける必要があるため。(地方自治法第96条第1項9号の規定)

## 特定非営利活動法人「日本で最も美しい村」連合への加入について

「日本で最も美しい村」連合の目的や活動に賛同し、小さくても自らの町や地域に誇りを持ち、将来にわたって美しい東彼杵町を残すためには、連合に加入し、全国の加盟町村と課題や経験、研究を共有し、かつ研鑽していくことが必要なため。

### 発議

議員報酬及び、費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例 (議員報酬を平成26年4月1日から恒久的に10%削減するもの)

### 発議

議員報酬及び、費用弁償等に関する条例の一部を改定する条例 (議員報酬を平成26年1月から27年4月分まで期限付きで20%削減するもの)

※上記2議案は、特別委員会へ付託

## ★水道料金・下水道料金の値上げ(4月から)

**簡易水道基本料金** 1550円 → 1600円 (遠目地区3090円 → 3180円)

超過料金(1㎡につき) 155円 → 160円 (遠目地区 309円 → 318円)

**公共下水道料金基本料金** 使用料5㎡まで 950円 → 980円

使用料6~10㎡まで 1500円 → 1550円

超過料金(使用料が10㎡を超えるもので、1㎡につき) 150円 → 155円

\*農業集落排水・漁業集落排水も同様に値上げされます

4月から消費税が5%から8%に上がるため



# 産業建設文教常任委員会研修

## 学校統廃合について

熊本県あさぎり町では、それまで町内5中学校あった学校を1つの中学校に統合してスタートした町です。開校前は色々な意見もあったようですが、教育委員会と執行者側が何度も説得に当たり、議会採決においても僅差の可決だったとの事です。統合してからは、学年4~5クラスになり、数多くの人と接する機会が増え、クラス替えなどもあり、切磋琢磨することにより学業も向上し、また、部活の選択肢が増え陸上で九州大会や全国大会に出場し生徒の自信になっているとの事です。95%の人が統合して良かったと言っているそうです。



熊本県あさぎり町

## 橋梁長寿命化について

熊本県菊池市では、市が管理する全ての橋梁（全560橋）を対象に平成22年度~25年度にかけて段階的に橋梁の長寿命化修繕計画策定が実施され、地区ごとに15m以上と15m未満の橋梁に分類し、点検により確認された損傷事例が示されていた。路上や路面では防護柵・舗装の損傷、主桁の腐食や基礎部分の損傷などが点検され、点検データを反映させるシステムが採られている。今後50年間における維持修繕にかかる費用について2ケースのコストシュミレーションがされており、橋梁長寿命化修繕計画策定委員会や計画策定担当部署を設け、対策に当たるとの事だった。



熊本県菊池市

## バイオマスについて

熊本県山鹿市では、家畜排泄物の適正処理と可燃ごみの減量等による環境負荷の低減を図るため、地域のバイオマスの有効利用による環境保全型農業の推進と資源循環型社会の構築を図るために建設された。バイオマス処理としては、メタン発酵施設・堆肥製造施設・脱臭設備などを設け家畜排泄物・生ごみの家庭系ごみ・事業系ごみ、集落排水汚泥などを処理し、施設によってできた堆肥や液肥は農地に還元し、バイオマス施設により発生したメタンガスで発電を行い売電されていた。



熊本県山鹿市

# 総務厚生常任委員会研修

行政に頼らない「むら」づくりで有名な鹿屋市串良町柳谷地区、地元では「やねだん」と呼ばれている地区を視察しました。

128世帯298人の小さな集落だが、自治会がさまざまな活動で自主財源を確保、独自の福祉や青少年育成に取り組んでいる。

注目されているのは、公民館長の豊重哲郎氏の手腕である。高齢化率37%の過疎のむらを「さつまいも」の栽培から「焼酎」づくり、さらに販売までの6次産業化を確立させ、今では地区民総参加の事業となっており、敬老の日ひとりひとりにボーナスが支給されている。

その利益で独居福祉対策として老人緊急警報機が設置されている。

次に老人の方が持っている技術を役立たせるために、いも植えの指導や施設の建築などを手伝ってもらうごとに表情が明るく、達成感もあり、医療費の節減にもつながっている。

また年に2回「やねだん創世塾」を開催されており、まちづくりのリーダーを目指す人が全国から多数集まられている。その中には奈良県十津川村の村長さんも参加されていた。

最後に話されたのは、初めての行動を起こす場合は周囲を気にせず「出る杭」になれということでした。



鹿児島県鹿屋市串良町「やねだん」

## 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

町議会を代表して新年のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様には、輝かしい新春をご家族お揃いで健やかに過ごしのことと心よりお慶び申し上げます。

日頃から町議会に対しまして、温かいご理解・ご支援を賜り心から感謝を申し上げます。

昨年のお世相を表す言葉は「輪」でした。これは東京五輪招致成功からきた言葉であり、昨年の最も明るい話題でありました。成功の決め手とも云われる滝川クリステルさんのプレゼンでの「おもてなし」は、昨年の流行語大賞にも輝きました。

本年早々から五輪開催に向けた建設工事が進められると思いますが、回復基調にあるとは云え、まだまだ実感がない国内経済発展の牽引役になってほしいものです。

一方で、今年は消費税が5%から8%に上がります。増え続ける社会保障費と国の借金の財源として、国民も渋々納得せざるを得なかった増税です。

本当に、初期の目的に使われるかを、私たちは監視していかなければならないと思います。

ここで、昨年の議会活動の一端をご報告させていただきます。

議会構成については、「議会だより」の充実を図るため、広報編集委員会を特別委員会から常任委員会に改めた他、常任委員会も再編成しました。

また、学校適正規模調査検討特別委員会は、平成23年6月から調査研究してまいりましたが、小学校2校、中学校1校が望ましいとし、教育委員会をバックアップしていくという報告を以って役目を終了しました。

議会改革特別委員会では、新年度予算報告と前年度決算報告をテーマに議会報告会を年2回各自治会や各種団体との間で行ない、組織として町民の皆様の声の直に聴くことができましたことは、大変有意義であり、今後も継続発展させていきたいと思っています。

議会報告会でも、テーマとして取り上げさせていただきましたが、議員定数を12人から10人に削減するという、議員から提案された条例については、5か月余り掛けて調査研究し審議を行った結果、それぞれの意見があり、賛成少数で否決となりました。

今年も、依然として国県への財政依存は変わりませんが、町民の方が少しでも幸せを実感できるよう、「行動する議会」を標榜し議員個々の研鑽を積みながら、町執行部と一体となって邁進する所存であります。

加えて、昨年の流行語大賞となった「倍返し」を、お礼や感謝の倍返しと捉え、町民皆様にご恩返しができるよう努めてまいる所存であります。

どうか本年は町民皆様にとって幸せな一年に成ることを祈念して、町議会を代表しまして新年のご挨拶いたします。

平成26年元旦

東彼杵町議会議長 森 敏則

